

STAGE+を楽しむ(42)(HP 収載)
—アームストロング鍵盤音楽年代記(2)—

1. 始めに

前報(41)に引き続き、STAGE+のアームストロング鍵盤音楽年代記の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、アームストロング鍵盤音楽年代記の演奏を選びました。

アームストロング 鍵盤音楽年代記 1720~1820 Enlightenment of Heart and Mind

東京・春・音楽祭 2023

収録日: 2023年4月6日

圧倒的なレパートリーの広さと高い技術、そして膨大な知識を有する稀有なピアニストであるキット・アームストロング。「東京・春・音楽祭」の公演である「鍵盤音楽年代記」は全5回のシリーズで、アームストロングならではの視点から鍵盤音楽史を深く辿ることができるものです。シリーズの核ともいえる今回は、音楽の発展を明確に追いかけています。バッハの、当時革新的だった平均律クラヴィーア曲集に始まり、ハイドンの変奏曲を経て、モーツァルトへとバトンが渡されます。当時一世を風靡していた C.P.E.バッハの幻想曲、そしてベートーヴェンのソナタ《月光》と、幅広くこの時代を網羅しています。

ソリスト:

キット・アームストロング (ピアノ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ

《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より 第1番ハ長調 BWV846

ヨハン・セバスティアン・バッハ

《平均律クラヴィーア曲集第2巻》より 第22番変ロ短調 BWV891

ヨーゼフ・ハイドン 変奏曲へ短調 Hob.XVII:6

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト ピアノ・ソナタ第10番ハ長調 K.330

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ 《自由な幻想曲》嬰へ短調 H.300, Wq.67

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 自動オルガンのための幻想曲へ短調 K.608

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ・ソナタ第14番 op.27-2 《月光》



「鍵盤音楽年代記」公演 5 回のシリーズの 3 回目でバッハからベートーヴェンの鍵盤音楽を辿ります。今回もピアノはベーゼンドルファーです。

バッハからハイドンを経て、モーツァルトとカール・フィリップ・エマヌエル・バッハ、そしてベートーヴェンへと、鍵盤音楽の発展の歴史を知ることができます。

アームストロングは、レパートリーが広く、博識で、これらの音楽をよく理解しているようで、弱く美しくスローな旋律から、たたきつけるような激しい強打のパッセージの表現まで、これらの音楽を提示してくれています。親しみのある曲がほとんどで、同一奏者の演奏ですから、音楽史の見本みたいなプログラムでした。



以上